

識別番号	L 3
研究課題	上智大学イスラーム地域研究の現在
研究代表者	私市正年（イスラーム研究センター・外国語学部アジア文化副専攻・アジア文化研究所所員）
共同研究者	川島緑、赤堀雅幸（以上、外国語学部アジア文化副専攻・アジア文化研究所所員）、三代川寛子（アジア文化研究所客員所員）、高橋圭（イスラーム研究センター特別研究員）、荒井康一（アジア文化研究所 PJRA）
Summary	<p>This 5-year joint research project on “Islamic Area Studies” at Sophia University is composed of research groups studying on the theme of “Modern Experiences of Muslims and Their Networks”, centering on the staff of the Center for Islamic Studies at Sophia University. We intend to structure this center’s work around three topics for joint study taken from the main findings of the initial 5-year research period (2006-2011): “The Social Roles of Islamic Movements Dissociated from Political Factions”, “The Expansion and Development of Popular Islam”, “The Realities of the Islamic Networks that Link South-East Asia, the Middle East, and Africa”.</p> <p>Since the Modern era, the distinctive characteristics of Islam (its teachings, thought, culture, etc.) can be said to reside in the breadth of its geographic areas and the depth of its societies. We believe the driving force therein is not political power as much as the power of networks of people, objects, and information that center on a populace. So, taking historical and geographic expansion into account, our main research theme is an analysis of the dynamism of movements and the various aspects of Islamic society, culture, and religion that are formed through populace-centered networks.</p>

1. 本研究の目的および背景

「イスラーム地域研究」とは、イスラームとイスラーム文明に関する実証的な知の体系を築くことをめざす新しい研究分野である。その開拓と推進のために、2006年より人間文化研究機構（NIHU）と共同で、本学を含む5つの大学・研究機関に研究拠点を設け、相互に連携しながら活動を行うネットワーク型の共同研究である NIHU プログラム「イスラーム地域研究」が開始された。本プログラムは2011年3月に第1期活動を終了したが、2011年4月から第2期活動が新たに始まり、2016年3月まで続くことになっている。

第2期において、本学拠点では「イスラーム近代と民衆のネットワーク」を研究テーマに掲げて研究を推進する。そこで具体的な研究課題となるのは、①イスラーム運動における社会的活動、②イスラーム書を介した人と情報のつながり、③スーフィズム・聖者信仰複合によって結ばれるイスラーム的ネットワーク、の3つの個別課題である。

「イスラーム近代と民衆のネットワーク」を本学拠点の統一テーマとした意図は、西アフリカから東南アジアまで広がるイスラーム社会における近代性の諸問題は、単なる「西洋近代の衝撃」への対応、あるいは、政治組織や経済体制の変容という観点のみでは、とらえきれないという問題意識からである。すなわち、本研究では、ムスリム（イスラーム教徒）自身による主体的な知的・社会的営為および政治的・社会的運動に焦点を当て、ム

スリムが、近代性とどのように出会い、それをどのように理解したか、そして、それが一般民衆の中にどのように伝えられたか、さらに政治運動・社会運動としてどのように機能したのか、を検証する。とくに彼らの著作物や運動組織を分析して解明を行う。

2. 研究の方法・内容

具体的な研究内容として、まず、イスラーム運動組織の出版物、主要なイスラーム知識人の政治思想、国際認識、教育思想と教育運動、スーフイズムや民衆イスラームについて、アラビア語、マレー語などの現地語一次資料を体系的に収集・分析し、欧米言語資料も併用しつつ、これらの活動や思想の特徴を明らかにする。次に、これらの分析を通じて、西アフリカから、中東・東南アジアまで広がるイスラームの思想や運動、民衆組織などのネットワークの実態を解明する。そして、以上の成果の上に立ち、現代社会におけるイスラームの在り方とイスラームが提起する諸問題を検討する。

研究活動は、本学拠点として市ヶ谷キャンパスに設置されたイスラーム研究センターが主体となり、研究会、セミナー、国際ワークショップなどの開催を通じて推進する。また、本学の特徴を生かし、アフリカから中東、東南アジアに広がっているカトリックの研究者・研究機関のネットワーク、たとえばサン・ジョセフ大学（バイルート）や上智大学カイロ研究センターなどと連携し、本学拠点の活動を国際的ネットワークの中につなげていく努力を行う。

以上の研究活動を通じて得られた成果は、①SIAS Working Paper Series（上智大学イスラーム研究センター発行）②『上智アジア学』（年刊、上智大学アジア文化研究所発行）③イスラーム地域研究全体の刊行物（IAS 英文研究叢書シリーズ New Horizons in Islamic Studies、「イスラームを知る」シリーズなど）④その他の出版媒体⑤本学拠点ウェブサイト（<http://www.info.sophia.ac.jp/SIAS/index.html>）などの多様な媒体を通じて順次発表する。

3. 拠点形成に向けた取り組み

「イスラーム地域研究」プロジェクトの主眼の一つは、その研究活動の推進を通じて、本学拠点を含み 5 拠点をイスラーム地域研究の恒常的な研究拠点として組織することにある。この取り組みが評価される形で、2008年に本プロジェクトは文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」に採択された。本事業は、その名称が示す通り、各拠点の形成・整備の支援を目的とした委託事業である。

本学拠点では、この委託事業の推進部門として、上智大学イスラーム地域研究機構を立ち上げ、公募研究と拠点強化学業の二つの研究プロジェクトを推進している。公募研究は学外から研究テーマを公募して行われる共同研究であり、現在、粕谷元日本大学准教授を中心として「イスラーム社会の世俗化と世俗主義」と題した研究を行っている。拠点強化学業は本学拠点の研究活動を補完する共同研究であり、現在、シリル・ヴェリヤト本学外国語学部教授を中心に「イスラームをめぐる諸宗教間の関係の歴史と現状」と題して、中東における宗教的マイノリティがおかれた状況に関する総合的研究を行っている。